募金の活用について（2023 年度）

日本で昔から飼養されてきた在来馬は、輸送や農業の機械化に伴い数が減少していきました。現在、日本には在来馬保存会は 8 団体あり、種の保存に努めています。そのなかでも、野間馬（愛媛県）、対州馬（長崎県）、宮古馬（沖縄県）については、残存頭数が非常に少なく絶滅の危機に瀕している状況です。

文化的価値の高い日本在来馬の頭数の維持・増加を図ることを目的として、皆様からご支援をいただきました募金を活用し、以下の取り組みを行いました。

馬用開口器の導入

【木曽馬の里　木曽馬乗馬センター（長野県木曽郡）】

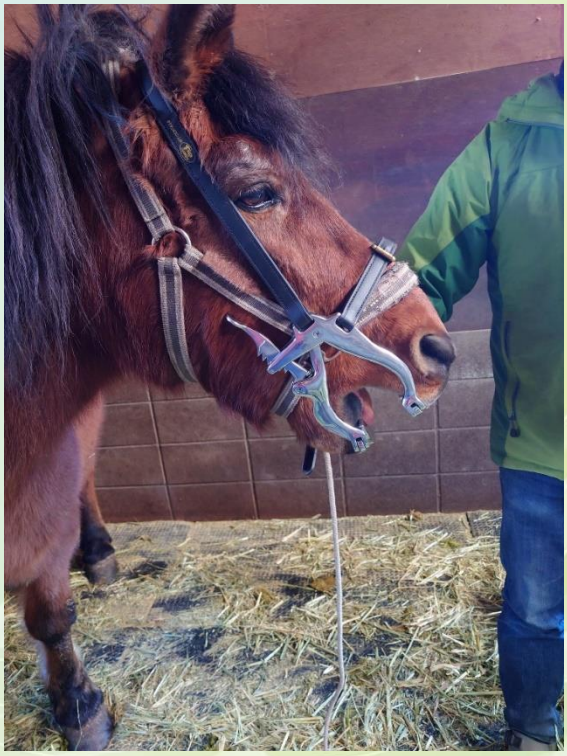
【のまうまハイランド（愛媛県今治市）】

【目保呂ダム馬事公園（長崎県対馬市）】

木曽馬、野間馬、対州馬については、飼養者が日常的に馬専門の獣医師や装蹄師からの指導を受けることが難しい状況となっています。

このような状況の中、馬の歯牙を適正に管理することは、疝痛等をはじめとする消化器官疾患の発生率を抑制するだけでなく、健全な食物摂取による健康維持、さらには寿命の延長に大きく影響を及ぼすことが証明されています。

そのため、これら３馬種の各保存会に馬開口器を整備することにより、各保存会の飼養者にて馬の口腔内を適切かつ詳細に観察することができ、整歯処置が可能となるだけでなく、その状態を映像等で詳しく獣医師に伝えることで、適正な健康管理に寄与することが期待されます。



馬体重計の導入【目保呂ダム馬事公園（長崎県対馬市)】

馬体重計を整備し、正確な体重を知ることで、厳密な給餌量・投薬量を与えることができ、健康管理に大きく貢献するものと期待されます。

平打ち縄の整備【木曽馬の里　木曽馬乗馬センター(長野県木曽郡)】

平打ち縄とは、若馬や未調教の馬の脚に掛けて使用する用具で、脚を上げる調教や蹄の削蹄時の保定に用います。

木曽馬の里にて現在使用している平打ち縄は、経年劣化等で使用が困難になり、同平打ち縄での作業は、人馬共に危険な状況となっていました。

平打ち縄を整備することにより、人馬の安全確保を図るとともに木曽馬の飼養管理の改善に寄与するものと期待されます。

仮設放牧柵の整備【木曽馬の里　木曽馬乗馬センター(長野県木曽郡)】

木曽馬は、現在 37 頭が木曽馬乗馬センターにて飼養されています。 生産頭数向上のため、獣医大学研究室及び教授の協力を得ながら生産計画を進めていますが、現役種雄馬と種雄馬候補の若馬を飼養するにあたって、同一の放牧場での管理が年齢を増すごとに難しくなり、分けて管理する必要性が生じています。

この問題を解決するため、仮設放牧柵を設置して放牧場を整備することにより木曽馬の飼養環境の改善に大きく貢献していくものと期待されます。

公益財団法人馬事文化財団では、皆様の募金を公益社団法人日本馬事協会に寄付し、2023 年度は馬用開口器及び馬体重計の導入、平打ち縄及び仮設放牧柵の整備を行いました。

今後も皆様からの募金・寄付金を活用して、在来馬の保護活動に努めてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

募金の活用について

日本固有の純粋な在来馬種（日本在来馬）は、北海道和種（北海道）、木曽馬（長野県）など、現在8種類が存在します。

そのなかでも、野間馬（愛媛県）、対州馬（長崎県）、宮古馬（沖縄県）については、残存頭数が非常に少なく絶滅の危機に瀕しており、文化的価値の高い日本在来馬の頭数の維持・増加を図ることを目的として、皆様からご支援をいただきました募金を活用し、以下のような取り組みを行いました。

対州馬放牧場の整備

【目保呂ダム馬事公園内（長崎県対馬市）】

2018年（平成30）寄付分

対州馬は、平成17年に25頭まで減少し、絶滅の危機に瀕した状況となりました。その後、対州馬保存会が中心となり、目保呂ダム馬事公園の周辺に4ヵ所の放牧場を整備するなど、各種の対策を講じた結果41頭まで増加しましたが、飼養管理の問題等から放牧場の拡充・整備が必要となっていました。

この問題を解決するため、公益財団法人馬事文化財団では、皆様の募金を公益社団法人日本馬事協会に寄付し、平成30年に新しい放牧場の牧柵整備を行いました。「種の保存の一つの目安となる50頭以上への増頭」は、対州馬の保存方策の目標の一つに掲げられています。新放牧場は、2ヘクタールの面積を有し、専門スタッフが常駐する馬事公園からも一望できる好立地にあります。また、馬運車を使用することなく、曳き馬での馬の入れ替えが可能など、作業の効率化を図りながら行き届いた飼養管理ができる環境が整備されたので、今後の「50頭以上への増頭」という目標達成に、大きく貢献していくものと期待されます。

これからも、皆様からの募金・寄付金を活用して、在来馬の保護活動に努めてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

新設された牧柵・門扉

超音波画像診断装置（エコー）の導入　【野間馬ハイランド（今治市）】

２０１５年（平成２７）寄付分

絶滅の危機に瀕する馬種のうち「野間馬」は、平成 18 年度に総頭数 85 頭まで回復しましたが、ここ数年、急激な飼養頭数の減少が見られ、現在、残存数が約 50 頭となっています。

さらに若い雌馬の頭数が非常に少ない状況であることも絶滅の危機が心配されるところです。

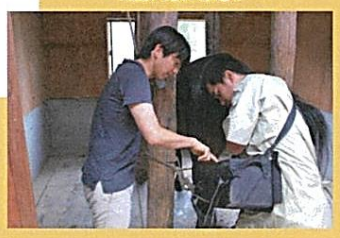
増頭対策の手段の一つとして雌馬を効率よく妊娠させることが必要と考えられるため、公益財団法人馬事文化財団では皆様の募金を公益社団法人日本馬事協会に寄付し超音波画像診断装置（エコー）を導入、「野間馬ハイランド（今治市）」に於いて活用します。

同装置の活用により卵胞の発育状態を確認することで正確な交配適期の判定や妊娠鑑定が可能となり、仔馬の生産に効果が期待されるものです。

今後も、皆様からの募金・寄付金を活用して、在来馬の保護活動に努めてまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

超音波画像診断装置（エコー）

鑑定風景



エコー診断画像

種付 15 日目

種付 30 日目